

平成27年度 屋代南高等学校評価表

学校教育目標							
校訓: 誠実と自発		教育方針					
<p>誠実とは人間形成の基本的要素である。真理を愛し、自らを律し、他を尊敬する豊かな人間性もまたこの誠実に基づくものであることを思い、これを培うことに努力する。</p> <p>人間の尊厳は創造にある。創造性の源泉はまた自発にある。自発的であってこそ真に自立性のある活動が営まれる。これにより、学芸の研究、道徳の実践、社会活動等はおのずから生気を帯び、活気に満ちた行動となって現れる。平和で幸福な未来を創造していくべき高校生にとって、この自発の精神こそは欠くことのできないものであることを自覚させ、これを助長するよう努力する。</p>		<p>①一人ひとりを尊重する教育を実践する</p> <p>②自主性を重んじ個性の伸長を図る</p> <p>③豊かな情操と自立の精神を育てる</p> <p>④地域との連携を深め、郷土を愛する心を育てる</p>					
重点目標(中・長期的目標)		総合評価					
<p>社会人基礎力の獲得に向け、学校生活や地域と連携した様々な活動を通して、健康で豊かな心を持った生徒の育成を目指す。</p>		<p>落ち着いた学習環境が確立され、地域からの信頼が回復されつつあるなか、中・長期目標として「社会人基礎力の獲得」を掲げた。具体的には「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を意味するが、これらの能力を高校生活の中で体得させるには、まだまだ課題が残る。基礎学力の定着や豊かな心を育む近年の取り組みに、就職先および進学先でも通用する幅広い能力の獲得を目指した、さらなる実践を積み上げていく必要がある。</p>					
今年度の重点目標		評価(成果と課題)					
1	<p>基礎学力の向上に力点を置いた学習指導を展開し、希望する進路実現を目指した、きめ細やかな指導を実践する。</p>	<p>少人数の講座編成によるや、「マナトレ」を活用した取り組みも1、2年生を対象に継続することができた。校外模試や各種検定受験者数も大幅に増加し、生徒の進路実現への意識も向上してきた。キャリア教育を土台にした、きめ細やかな進路指導が進路状況に結実した。秋より、1・2年生の進学希望者を対象とした補習も始まったが、進学後も視野に入れた学力保障の態勢づくりについては引き続き課題である。</p>					
2	<p>日常生活指導を通じて、生徒一人ひとりの規範意識を高め、自覚と責任ある行動の涵養を促すとともに、人権を尊重する心を育て、安全で安心な学習環境の確立を目指す。</p>	<p>問題行動も減少し、落ち着いた雰囲気なか、生徒の規範意識も少しずつ向上していると思われる。情報機器の発達に対応しつつ、他者理解、意思疎通についての適切な指導や学習は今後も必要である。</p>					
3	<p>生徒自ら取り組む生徒会活動やクラブ活動を支援し、活性化と充実をはかり、外部との交流も積極的に行い、地域から信頼され、愛され、必要とされる学校づくりを目指す。</p>	<p>地域行事などへの参加・参画が定着しつつある。クラブ活動では、部員が増加し各種大会やコンクール等に積極的に参加する部がある一方、部員不足から大会出場が途絶えた部もみられた。クラブ活動の活性化はひきつづき大きな課題という。</p>					
分野	評価項目	評価の観点	成果と課題	改善策・向上策	評価		
教育活動	学習指導	基礎学力の向上	1	<p>少人数学級・講座編成の利点を活かし「わかる授業」を展開することができたか。特に1年次においては「学び直し」を取り入れ、基礎学力の定着を図ることができたか。</p>	<p>少人数の講座編成による、「分かる授業」を実施することができた。基礎学力の定着については1・2年生を対象に「学び直し」を週1回の割合で実施してきた。成果と今後の方針について検討が必要である。</p>	<p>学び直しとして実施してきた「マナトレ」の成果を評価し、基礎学力の保障について今後の方針をまとめる。学習習慣の定着のために定期的な教材・課題の検討が必要である。</p>	B
	より良い学習態度の定着	1・2	<p>生徒が落ち着いて学習に集中できる環境作りを徹底できたか。また生徒が自ら考え、意欲的に取り組むことができる授業を実施することができたか。</p>	<p>生徒が落ち着いて授業に取り組むことができるように、適切に指導し生徒の意識を高めることができた。生徒がより主体的・積極的に授業に取り組む、また内容の理解・定着がなされるような工夫を続けていく。</p>	<p>生徒の学習意欲を高める指導、理解・定着を図るための工夫が必要である。</p>	B	
	個に応じた指導の充実	1	<p>進路実現のために細やかな個別指導を実施することができたか。</p>	<p>進路実現にむけて進路指導係と協力し面接指導、小論文指導、進学補習等の個別指導を実施することで全生徒の進路を実現することができた。また校外模試の受験者数、各種検定の受験者も大幅に増加した。今後も進路実現への意識を高める指導を継続していく必要がある。</p>	<p>テスト前学習室や進学補習の期間と頻度については再考する必要がある。</p>	A	
教育活動	進路指導	キャリア教育の充実と進路意識の高揚	1	<p>健全な職業観育成のためインターンシップに積極的に取り組ませることや、進路講話・説明会の開催により、早い時期から生徒の進路意識を高揚させることができたか。進路意識を高める総合学習になるよう研究・実践できたか。</p>	<p>インターンシップについては、今年度も夏季休業期間中に2学年全体で取り組むことができた。進路ガイダンスについては各学年1回実施した。また、1、2年生には適宜進路講話を実施しそれぞれの学年に適した内容を盛り込み、生徒の進路意識を高めることができた。</p>	<p>総合的な学習、進路ガイダンス、進路講話について、前年度の取り組みを引き継ぎつつ、そのときの生徒の状況に応じた活動を実践していきたい。</p>	B
	多様な進路希望の実現	1	<p>3年間を見通した進路指導計画を作成し、一人一人の希望進路実現に向けてきめ細かく支援することができたか。科目選択のガイダンス指導は適切にできたか。選択科目の適正な配置等によって、生徒の多様な進路希望にも対応することができたか。</p>	<p>個人面談を中心にして一人ひとりの進路希望に沿った支援を行った。学力向上と、進路意識を高めるため校外模試を計画的に行った。また、11月より1学年・2学年で放課後補習を計画的に行った。県費で不足した分を私費で補い、昨年度と同様に進路支援員を配置し対応した。</p>	<p>放課後補習の計画を1学期のうちに計画を立てて実施していく。進路活動支援員事業の継続、個人面談等進路実現に向けた取り組みを継続していく。</p>	A	
	進路指導における校内連携および保護者との連携の強化	1	<p>係・学年にとどまらない全校職員による進路指導体制を確立し、保護者に対しても情報提供、個別懇談や相談を行う機会を設けることができたか。</p>	<p>インターンシップでは全職員の協力のもと準備が進められている。就職希望者との保護者懇談会に同席し情報を共有した。PTA総会等の場で進路指導係からの情報を発信した。</p>	<p>保護者に向けて情報を積極的に発信し、連携をとり生徒の進路実現を支援したい。</p>	B	
教育活動	生徒指導	暴力・いじめを許さない指導の徹底	2	<p>入学時の指導や様々な集会・講演会、HR指導などを通じて、暴力・いじめを未然に防ぐ指導が徹底できたか。</p>	<p>いじめと思われる問題行動が春に発生してしまったが、複数回のアンケート調査、学年集会などで防止に努め、現在はないと思われる。</p>	<p>職員研修を充実させる。生徒向けに講演会などを考える。</p>	B
	交通安全指導の徹底	2	<p>交通安全講習会、自転車点検、HR指導などを通じて、いのちの大切さと交通安全に対する意識を高めることができたか。</p>	<p>年度始めの交通安全講習会に加え、千曲署と連携し、春・秋と自転車安全講習会を行うことができ、交通安全への意識が高まった。また、自転車の安全点検を行ったり、駐輪場の見回りを実施した。しかし、完全には自転車事故がなくならなかった。</p>	<p>外部協力団体と連携し、交通安全教室をより実践的な内容に見直す。</p>	A	
	校内外における生徒の規範意識涵養	1	<p>校内巡視・学校生活態度改善カード活用で、生徒の授業に取り組む姿勢を向上させることができたか、また、校外巡回指導により、駅・列車内・通学路での生徒のマナー向上が実現できたか。</p>	<p>校内巡視は計画通り行っていたが、今年度は盗難事件が発生してしまった。年度当初より駅の立ち番、周辺の巡回を行った。交通マナーにおいて数件苦情を受けたが、現在ではマナーも徐々に向上し、落ち着いた生活・授業が送れていると思われる。</p>	<p>貴重品の管理を生徒に徹底させる。校内巡視の徹底。駅や通学路の巡回をまめに行う。</p>	B	
	多様な悩みやトラブルを抱えた生徒に対する相談・支援体制の充実	2	<p>係・学年の連携のもとでスクールカウンセラーや支援員などを有効に活用して、生徒や保護者に適切な支援と指導を行うことができたか。</p>	<p>ベテランカウンセラーの活用で、生徒自身だけでなく、保護者に対しても適切な支援ができた。スクールソーシャルワーカーの先生に関わってもらう事により支援会議に関係機関の方が来てくださり、適切な支援ができた。</p>	<p>特別支援の必要な生徒について中学校からの詳細な引継ぎをする。</p>	A	
生徒の自主活動	生徒の自主活動	〔生徒会活動〕 生徒が主体的に活動するための適切な助言と指導	3	<p>適切な助言、指導を行い、生徒会行事の充実や日常的な活動を発展させることができたか。</p>	<p>生徒が主体的・積極的に生徒会活動に参加できるよう指導をすすめることができた。他生徒の模範となるリーダーの育成と、全校生徒が一丸となって参加できる生徒会活動を目指し、今後も指導を進めていきたい。</p>	<p>執行部の生徒だけでなく、全校が関心を持ち協力できる生徒会活動の計画・実施を目指し、リーダーの育成に力を入れていく。</p>	A
	〔クラブ活動〕 クラブ活動の活性化	3	<p>クラブ活動加入者を増やし、生徒の自主的な活動に適切な指導ができたか。</p>	<p>クラブオリエンテーションや壮行会などクラブ活動の活性化を目指し取り組むことができた。学校全体のクラブ活動がより活発化するよう、部員の加入を呼びかけていく必要がある。</p>	<p>定期的な部員の勧誘や部活動の活動状況報告の実施が考えられる。</p>	B	

学校運営	開かれた学校づくり	地域との連携	3	生徒会活動を中心に地域の諸行事に積極的に参加することができたか。	地域行事に積極的に参加し、地域の方々と交流を深める中で本校に対する地域からの信頼と理解を得ることができた。具体的には屋代地区の側溝掃除・お田植え祭り・森將軍塚まつり等に参加した。	より多くの生徒が地域に関心を持ち、参加できるような活動の計画・実施を進めていく。	A
			1 2 3	地域の教育力を様々な場面で活用することができたか。	ライフデザイン科や生徒会に加え、有志による地域の諸行事や会議に参画する実践がみられた。	外部の方々の声を学校の教育活動に反映させる方策について検討していく。	A
		保護者・地域への情報提供	1 2 3	HPや学校通信等を通じて、本校の活動に関する情報をわかりやく提供しているか。	学校通信を年間3回発行し、近隣の中学校等に配布。ホームページは適時更新に努めた。	学校通信の発行および配布について、よりよい時期を検討していく。ホームページを形式・質ともに向上させる。保護者との意思疎通にマ・メールを有効に活用する。	B
		学校評価活動の活用	1 2 3	保護者による評価・学校関係者評価をもとに教育活動の改善を図れたか。	7月と1月年2回の授業評価、12月に保護者学校評価を実施した。特に保護者からの要望を反省職員会等で検討した。	保護者評価の回収率を向上させる必要がある。	B
	校内研修	学習指導に関わる研修	1	授業改善や学習指導の充実のための研修会や公開授業・研究授業を実施できたか。	夏休み恒例の職員研修会にて、キャリア教育を主題に本校生徒に身につけさせたい力について考える機会を設けた。12月には職員相互の研鑽の場として公開授業・研究授業を実施した。アクティブラーニングの実践やICT機器の活用が着実に進んでいる。	生徒の意欲を引き出す授業展開の工夫とともに、社会人基礎力を定着させる学習指導の実践は引き続き大きな課題である。	A
		生徒指導に関わる研修	2	多様化する生徒を理解し、人権意識を高めるための研修会を実施できたか。	10月に職員研修会を実施〔2015センター研修報告(教務・生徒指導・進路)・支援会議について〕	生徒指導に関する研修は、臨機応変に対応していきたい。	B
		職員の資質向上に関わる研修		綱紀粛正に努め、信頼される教職員集団として活動するための研修を実施できたか。	県からの通達について、そのつど職員会で学校長より職員に注意喚起した。また学校安全衛生委員会に非違行為防止委員会が含まれており、学校医などの第三者からの意見をいただきながら職員研修の計画立案を行っている。	学校医などの第三者からの意見をいただきながら、実効的な職員研修の計画立案をしていく。	B
	安全管理	施設設備の整備	2	生徒の安全な学習環境を維持することができたか。	職員各々が校内危険箇所の把握に努め、その都度報告してもらっている。学校安全衛生委員会としても安全点検を行い、管理職・事務室と情報共有し対策を検討している。2年連続した工事で校舎の耐震化が図られ、LED照明の導入で学習環境は改善されている。	校舎の老朽化に伴う修繕箇所や真夏の暑さ対策、真冬の寒さ対策を進める必要がある。	B
		校内の危機対応の周知徹底	2	防災計画を整備し、緊急時対応の方策を確認する取り組みができたか。	9月に防災訓練を実施。例年通り、事前に生徒に予告しない形態をとった。生徒の取り組み姿勢も良好であった。	水害の想定や地域とt連繫した緊急時対応については研究課題である。	B